

会議議事録

会議名	平成 29 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 29 年 7 月 19 日 (水) 13:00~15:00 (2.0h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員:入野 豊委員 (非営利活動法人大田区介護支援専門員連絡会副理事長)、丸山泰一委員 (社会福祉法人池上長寿園池上統括事業所長 (計 2 名)) ②本校委員:橋本正樹 (校長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、熊谷 崇 (介護福祉科教員)、宮下明久 (事務局長)、榊原幸之 (広報室長) (計 5 名) ③オブザーバー:松下 薫 (介護福祉科教員)、武石稔弘 (医療秘書科教員)、畠山昭士 (広報室員) (計 3 名) ④事務局:川内靖美、高橋 稔 (参加者合計 12 名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付:□資料 1:平成 28 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会議事録、□資料 2:平成 29 年度教員研修計画、□資料 3:介護実習の手引き ②本日配付:□資料 4:平成 29 年度委員名簿、□資料 5:前回委員会以降の主な経過報告 (別添 A:平成 29 年度校務分掌、別添 B:平成 29 年度学事日程、別添 C:平成 29 年度クラス担任一覧、別添 D:平成 28 年度就職先一覧、別添 E:平成 29 年度 W C S P スケジュール、別添 F:平成 29 年度オープンキャンパス日程)、□資料 6:平成 29 年度重点目標と達成するための計画・方法、□資料 7:平成 29 年度学科運営計画、□資料 8:平成 29 年度カリキュラムの中間報告、□資料 9:平成 29 年度介護実習の予定 ③本日配付印刷物:□平成 29 年度講義要項、□平成 29 年度学生生活ガイド、□2017Challenge 就職活動ノート、□平成 30 年度入学案内書・募集要項
委員長	橋本校長
議題等	1. 今年度委員の確認及び本日出席者の紹介 事務局より、資料 4 に基づき委員の確認が行われた。企業等委員の任期は 9 月末までであることから、再任をお願いする予定であること、本校委員は変更がないこと、武石教員が医療秘書科に異動したが引き続きオブザーバー参加すること、学務課の委員会事務局担当が川内に変更になったことについて報告が行われた。 2. 校長挨拶 橋本校長より、本日出席の企業等委員の方々への謝辞の後、介護分野の養成校は相変わらず募集に苦勞しており、今年度は全国で定員 16,704 人に対して入学者が 7,752 人 (充足率 46.4% = 日本介護福祉士養成施設協会調べ) と、2008 年のコムスショック以来 8 年ぶりに 5 割を下回った。この 10 年で定員自体も 37.8%減っている中で相変わらず厳しい募集状況にある。その原因は風評被害も当然あるが、待遇面などをはじめ、養成施設で学ぶ魅力の乏しさがあるという指摘もあり、高校の進学指導などにも影響を与えている。 現在、国では外国人の介護人材を考える流れが急速に進んでいるが、現場へ技能実

習生を送り込もうという話が多い。本校の姿勢としては、留学生を受け入れる場合は、外国人のリーダー層となる人材を養成していきたいと考えている。

そのためにもしっかりと本校の介護教育を続けていくことであり、それには現場の方々との協力がますます重要になってくる。今年度も引き続き本委員会を通じて情報交換を積極的に進めていきたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認

本委員会の議事録の作成方法について事務局より説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めた旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成28年度第2回委員会以降の活動報告等について（説明者：宮下事務局長、事務局高橋、岩上学科長、熊谷教員、榊原広報室長、畠山広報室員）

資料5（別添A～F）に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より就職と訓練生について質問、意見があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成29年度の重点目標について（説明者：橋本校長）

資料6に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より授業公開について質問があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

6. 平成29年度の学科教育と学科運営について

(1) 平成29年度学科運営計画（説明者：岩上学科長）

資料7に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より介護実習と外国人の受け入れについて質問、意見があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成29年度のカリキュラムと教育のポイント（説明者：熊谷教員）

講義要項と資料8に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成29年度介護実習の予定（説明者：熊谷教員）

資料9に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 平成29年度教員研修について（説明者：岩上学科長）

資料2に基づき研修計画の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 平成29～30年度の委員委嘱について（説明者：事務局高橋）

事務局より、本委員会は「実践的な職業教育の課程編成に関する細則」に基づいて設けられ、委員の任期は2年と規定している。入野委員、丸山委員は今年の9月末で任期終了となるが、引き続きご協力をお願いする予定であることについて説明が行わ

れた。両委員より承諾する旨の発言をいただき、9月中に再任の手続きを行うことが確認、了承された。

9. 次回日程、その他

事務局より本委員会は年2回の開催であり、次回は2～3月を予定している。10月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う、次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

①平成29年度学科運営の進捗報告

②平成30年度の教育活動に向けて

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 29 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 28 年度第 2 回委員会以降の活動報告等について

○事務局高橋、宮下事務局長、岩上学科長、熊谷教員、榊原広報室長、畠山広報室員より、担当する項目について、資料 5（別添 A～F）に基づき平成 28 年度第 2 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 平成 29 年度の組織運営関連

- ・平成 29 年度校務分掌（別添 A）
- ・平成 29 年度学事日程（別添 B）
- ・平成 29 年度クラス担任一覧（別添 C）

2. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 28 年度の重点目標として、年間の退学率 3.5%以下を引き続き設定して退学防止に取り組んだ。
- ・3 月末の退学（除籍を含む）データは別添の通り。

(2) 就職活動の状況

- ・3 月末での内定状況は以下の通り。就職先のリスト（別添 D）
- ・学科運営計画に目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・介護福祉科の平成 29 年度 W C S P スケジュール（別添 E）

3. 学生募集関連

- ・平成 29 年度オープンキャンパス日程（別添 F）
- ・保護者説明会の開催
- ・ホームページのリニューアル他

○岩上学科長より、退学の状況と就職内定の状況について以下の補足が行われた。

- ・平成 28 年度は、1 年生の退学はなかったが、2 年生のうち訓練生 2 名が退学し、人数が少ないため退学率は 5%となった。
- ・2 A は 16 名中 15 名が就職を希望し、内定率 100%。2 B（訓練生）は 12 名全員が就職を希望したが、内定状況は 9 名で 75.0%となった。（前年度は 72.2%）

○榊原広報室長より、学生募集について以下の補足が行われた。

- ・オープンキャンパス参加者は合計 15 名。同一校から男子 3 名が参加したのが印象的だった。
- ・昨年度から広報室も高校ガイダンスに積極的に参加している成果が見えてきている。
- ・本年度の入学者 15 名を超えることを募集目標にしている。

○畠山広報室員より、ホームページのリニューアルについて以下の補足が行われた。

- ・モバイルデバイスから情報を取得する学生が増えている状況を考え、ホームページとスマートフォンの情報更新が連動して行われるシステムを導入した。
- ・職業のイメージしやすさをテーマに情報の更新を行っている。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

①就職について

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 就職活動のところで、訓練生の割合が低い理由	<input type="checkbox"/> 介護にあまり興味がない、待遇面が要求にほど

<p>は何か。訓練生の年齢的などころはどうか。</p> <p><input type="checkbox"/>就職は実習先に行くのが多いのか。</p> <p><input type="checkbox"/>合同就職説明会はあまり利用しないのか。</p> <p><input type="checkbox"/>大田区の合同就職説明会を9月9日に予定している。色々考えてはいるが、学校に案内しても期待が薄い様子が分かった。</p>	<p>遠いという点があるのかと思う。最高は60代、メインは40代である。</p> <p><input type="checkbox"/>本科生は学校求人です就職し、訓練生の場合は自己開拓が多い。</p> <p><input type="checkbox"/>案内が来たときはお知らせするが、訓練生が行くケースはあるがなかなか興味を持ってくれない。</p>
<p><input type="checkbox"/>それは額面だろうが、やはり最低は20万円かと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/>卒業生の勤務先から時給1,800円で1日3時間限定のアルバイト募集があったが、応募者はいたのか。</p> <p><input type="checkbox"/>時給は気になっていたようだが、近い人がいなくてまだ希望者はいない。</p> <p><input type="checkbox"/>キャリアサポートセンターのほうから、初任給が24万円くらいの施設には学生の反応がよかったという話を聞いた。</p> <p><input type="checkbox"/>介護協の統計では、昨年度、民間施設の介護職員の平均月給は21万5,000円で、全産業平均より安いというデータが出ているので、待遇面が要因の一つとしてあるかもしれない。</p>

②訓練生について

質問・意見等	回答等
<p><input type="checkbox"/>訓練生の様子はどうか。</p> <p><input type="checkbox"/>介護保険が始まって以来、厚労省の動きは小手先というか場当たりのことを繰り返してきた印象がある。</p>	<p><input type="checkbox"/>積極的に介護がやりたくて訓練生になった人は必ずしも多くなく、無事卒業して介護職に就く人は貴重な存在である。また、外国人についても、日本に在留する手段や生活するための手段と考えている人が少なくない。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業した訓練生12名中2名は中国人だったが、卒業式の前日に急に内定をキャンセルした。訓練生は、就職活動の実績が残ればよいと考えている面もある。</p> <p><input type="checkbox"/>今年は2年生2名、1年生1名で、60歳の男性が定年後入学してきた。すごく熱心で、本科生の中心的な存在になって引っ張ってくれている。</p> <p><input type="checkbox"/>政策と現実がうまくかみ合っていない。養成施設協会では、介護福祉士の上に管理介護福祉士の資格をつくって、モチベーションを上げてもらうような制度設計をしているが、今のところ厚労省が乗ってこないようである。</p>

5. 平成 29 年度の重点目標について

○橋本校長より、資料 6 に基づき以下の説明が行われた。

・今年度の重点目標 3 項目は昨年度と変わっていない。

① PC の育成と強化

・今年は、P（ポジティブ）の裏付けとなるレジリエンス（しなやかさ・復元力）の育成に焦点を当て、アクティブラーニング、実習などを通して現場力を身につけることを考えていきたい。

② 退学防止

・学校全体としては 3.5% という目標を立てている。10% ぐらいが専門学校の標準レベルと言われる中で高い目標だと思うが、教育の質的な評価の裏付けとして退学率は 1 つの指標となるので、きちんと数字で押さえていきたい。

・特に、AO 入試による入学者への対策に重点を置き、早めの面談、休みの兆候が見えたところで担任だけでなく、他部署、関係者と連携してフォローしていくことを強化策として取り入れている。

・AO 入試についてもボタンのかけ違いをなくすため事前の準備を考え、退学率の低下を目指している。

③ 教員研修及び授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

・授業公開は昨年度からかなり進展した。「教育研究」誌を利用して教職員のコミュニケーションを促進し、連携を強めていきたい。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p><input type="checkbox"/> 授業公開は先生同士で行うのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 学生はどうか。</p> <p><input type="checkbox"/> 任意の方はどの程度参観されるのか。</p> <p><input type="checkbox"/> これは先駆的な取り組みなのか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 常勤の教員は全員公開が原則で、非常勤の先生と事務職員は任意で参加している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学生には、あくまでも教員のための授業参観ということを伝えて、普段どおりに授業を受けてもらっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 兼任の先生は 5 名、事務職員では特に広報室の方々に多く参観していただいた。兼任の先生の参加が次への課題と考えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業を参観してもらい、フィードバックを受けることがインストラクションスキルの向上になると思う。最近、高等教育機関では教育の質的評価が非常にうたわれている。インストラクションスキルを公開し、お互いを高めていくことが当たり前と感られるような雰囲気が少しずつ本校でも生まれてきている。アカデミックハラスメントを防ぐ土壌にもなってきているので、よい方向で進んでいると思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 小中高では保護者の方に公開しているケースがあるが、教員同士の公開は、特に高等教育機関では難しい。</p>

6. 平成 29 年度の学科教育と学科運営について

(1) 平成 29 年度学科運営計画

○岩上学科長より資料 7 に基づき以下の説明が行われた。

(学科の教育目標及び業界ニーズ)

- ・ 3 つの領域に分けて目標を立てている。教育支援活動の目標と年間計画では、学生参加型の授業として授業の中でグループワークを多く取り入れて、考える力の強化に努めている。

(介護実習)

- ・ 介護実習 I から IV の最後に実習の中で学んだことを文章化し、発表する機会を設けて共有している。
- ・ 介護実習 IV で、昨年まで 2 日間だった在宅介護実習が 4 日間に変更になっている。実習の手引きが完成し、1 年生の 1 段階の実習からそれをもとに実習指導を行っている。
- ・ 昨年度から「ケーススタディ発表会」を実施している。これは第 3 段階の介護実習を終えてから、1 人の利用者に絞った介護過程の展開についてまとめて発表する。1 年生も参加し、お互いに学びとす機会をつくり、プレゼンテーション技術の向上にもつなげている。これは T P C の育成にもつながるものと考えている。今年は 12 月 19 日に予定している。
- ・ 今年は、隔年で行っていた実習指導者懇談会にかえて、6 月に実習指導者に対してアンケート調査を行った。その結果は次回お知らせしたい。
- ・ 実習の期間について、まとまった期間でやるのはハードではないかとの意見もあったので、帰校日の設け方を工夫するなど、改善を考えていきたい。また、実際に施設側としてはどのように考えるかアドバイスをいただきたい。

(国家試験対応)

- ・ 統一を図るため、年度初めに各教員に過去問題を入れた CD-R を配付している。
- ・ 6 月に第 1 回全国統一模擬試験を行った。この結果は 8 月に出るので、それを見ながらまた指導をしていきたい。

(マナー指導)

- ・ 「日本文化論」の授業の中で挨拶、マナーを学ぶ機会にしている。

(就職活動)

- ・ 前年度よりキャリアサポートプログラムを必修とした。引き続きキャリアサポートセンターと連携しながら、特に訓練生については就職につなげるようにやっていく。

(退学防止)

- ・ ここ数年、本科生の退学が全くない状況が続いており、それが介護科の自慢でもある。

(保護者会)

- ・ 保護者会を昨年初めて実施したが、ことしは 2 年生が少ないこともあり、6 月に 1、2 年生合同で実施し、国家試験の説明や希望者には個別相談も行った。
- ・ 保護者から子供の様子がわかるので続けてほしいという要望もあったので、継続的に行っていきたい。

(その他)

- ・ リーダーシップの育成については、授業で発表する機会をつくるほか、オープンキャンパスに学生スタッフとして参加することなどを通して自信が持てるような機会を考えていきたい。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

①介護実習について

質問・意見等	回答等
--------	-----

<p>□実習形態については、ぶつ切りで来られると毎回初心者のような感じになる傾向が強いので、連続して来てもらったほうがうれしい。ただ、5日、6日連続となると学生はきついだらうということは理解している。特に実習ノートを書くのが大変だと思うので、最後の30分は実習ノートを書く時間に充てるような工夫はしている。</p> <p>□施設サービスは面で捉える部分が多い。1日ずつは点でとらえる形になる。実習では大変だろうけれども、面=連続のほうが良いと思っている。</p> <p>□学校としては、間で1日帰校日を入れたほうがよいのか。</p> <p>□実習での夜勤はどうか。</p> <p>□実習先で3交代はあるか。</p> <p>□長寿園も日勤と16時間の夜勤と3交代で8時間ずつの2パターンになった。3交代と2交代は大分違う。</p>	<p>□せっかく学んだことが、間があいてまた1からというのは学びとしてふさわしくないと考えている。特に、第3段階は介護過程を展開するので、ある程度まとまった期間が必要になる。</p> <p>□真ん中に帰校日があると、ちょっと気分が変えられて、また頑張ろうという気持ちになる。中間のあたりで悩みを抱えてくる可能性もあるので、間に帰校日を挟む形が良いと思っている。</p> <p>□第2段階、第3段階でそれぞれ多くて1回、夜勤実習をしている。義務づけはされていないが、24時間の中で利用者さんを見るという意味では、ぜひ入れてほしいと要望している。</p> <p>□多摩済生会など、準夜があるところはある。</p> <p>□学生はLINEで情報交換をして、自分の施設でできないことを友達はやっていて不公平だというような話も出る。多様な経験ができるよう実習先と相談したり、新たな実習先を開拓していきたい。</p>
<p>□先ほど長寿園さんでは日誌を書く時間を設けているというお話があったが、以前、社会福祉実習を実施していたころには、実習時間内に必ず日誌を書く時間をつくってもらうことを施設にお願いしていた。介護実習はどういう扱いなのか。</p> <p>□そうすると、学生は日誌に追われるという感じになる。</p> <p>□自分の社会福祉士実習の経験は、実習先が遠いときが特に大変で、帰宅して書くことが難しいので、実習先で残業みたいな感じで書いていた。</p>	<p>□実習目標に対して、実際の事例を通じて学んだことに重点を置いた書式にしている。そこには教科書の基本と実際の応用の接点について考えてほしいという意味があるので、家でゆっくりと教科書と突き合わせて考えるようにという指導はしている。</p> <p>□実習先の配慮で記録の時間を30分～1時間設けていただいているが、目標と観察と考察という欄については、家に帰ってから考えて書くように伝えている。</p> <p>□教員としては、家に帰ってテキストを開いて、もう一度今日やったことの見直しをしてもらいたいという思いがある。</p>

②外国人の受け入れについて（学科より質問）

質問・意見等	回答等
□長寿園さんには外国人が就労しているのか	□日本国籍の方はいるが、技能実習生はいない。

<p>□言葉の問題はどうか</p> <p>□パソコンでの情報共有、例えば介護職で入力したデータを看護職が見られたりするシステムは以前からあるが、結局は、紙で書いたものを改めてパソコンで入力するので、かえって手間がかかるという現状があった。タブレットであるならばより簡単にできるのかなという印象はある。</p> <p>□外国人が入学した場合、教育側に求めるものは何か。</p> <p>□「日本文化論」という科目もあるが、それ以前に、学校生活の中で規律ある生活を身につけることが大切かと思う。</p> <p>□留学生に対する実習日誌の書き方の指導が大きな課題になる。タブレットがあるとはいえ、介護福祉ゼミで文章読解力について学ぶことは大切だと思う。</p>	<p>□話すのは大丈夫だが、書くのは難しいので記録はさせていない。タブレットの選択式の記録システムがあり、外国の方もできることを売りにしている。私どもでは1施設だけ入れているが、費用がかかるので、一遍に導入はできない。記録システムが入っているかが学生が施設を選ぶ選択肢の1つになっているという話も聞く。</p> <p>□介護現場では二重書き、三重書きが当たり前なので、その合理化は切実な問題だ。コンプライアンスと言われている中で、訪問介護中に直さなくちゃいけない書類の職種ごとのチェック、事業所ごとのチェック、そしてご家族へのノートなどがある。</p> <p>□スマホやタブレットを使った情報共有が広がっていかないのは記録の多重性や複雑さにあると思う。コンプライアンスの考え方、捉え方が変わらないと難しいと思う。</p> <p>□監督する側の根拠も記録に集中している。記録が一番のネックになっている。</p> <p>□休まない、仕事の途中で帰らないという、文化から教えてほしい。</p> <p>□実習の手引きを拝見して、挨拶をするとか、ご自宅に行ったら靴は脱ぎっぱなしにしないということは、外国人も含めて活用できると思った。</p> <p>□夜勤で外国人の方が仕事をしたとき、言葉で申し送りができないという課題がある。</p> <p>□勤務を組むときもリーダーにはできないので、補佐的なところから入っていく形になる。</p>
--	--

(2) 平成 29 年度のカリキュラムと教育のポイント

○熊谷教員より、講義要項と資料 8 に基づき以下の説明が行われた。

- ・カリキュラムは①専門的知識・技術プラス幅広い知識・教養の涵養、②在宅、地域における介護への理解を深める。③国家試験の対応の 3 つを目的に作成した。
- ・社会の理解Ⅱでは、特に障害者に関する制度、考え方について重点的に伝えている。
- ・医療的ケアⅡは、1年生の段階で基本研修を修了するので、2年生では演習を中心に実施した。
- ・介護福祉事務は、福祉事務管理技能検定対策として位置づけている。
- ・一部の科目について担当者を変更した。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

(3)平成 29 年度介護実習の予定

○熊谷教員より資料 9 に基づき以下の説明が行われた。

- ・ 1 年生対象の介護実習Ⅰは、6 月 12 日から 27 日までの 12 日間実施した。デイサービスや訪問介護サービスなどにも行っている。
- ・ 2 年生は、7 月 24 日から 8 月 24 日までの 4 日間、在宅介護実習を行う。
- ・ 9 月 11 日から 10 月 11 日にかけて、2 年生最後の実習の介護実習Ⅲを行う。
- ・ 来年 2 月 13 日から 3 月 9 日は、1 年生が介護実習Ⅱとして情報収集を中心に学ぶ。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

7. 教員研修について

○岩上学科長より資料 2 に基づき平成 29 年度教員研修計画・実績について以下の説明が行われた。

- ・ 教員研修については、介護協主催の全国研修と関東信越ブロックの研修に参加しているほか、教員が積極的に他の研修にも参加している。
- ・ 介護福祉の危機・討論会は受講済み。全国研修には熊谷教員と武石教員が参加予定。
- ・ 9 月 29 日関東信越ブロック研修には松下教員と岩上学科長が参加予定。
- ・ 上級救命講習会を 1 年生が受講する際に松下教員と一緒に受講。
- ・ 8 月 10 日神奈川県立保健福祉大学実践教育センターの研修に松下教員が受講予定。
- ・ 9 月 28 日国際福祉機器展に 1 年生が見学予定で、介護福祉科 3 名と武石教員も参加予定。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

8. その他

○本日のまとめとして橋本校長より以下の発言があった。

- ・ 介護福祉科の学生は、学科長から説明の通り退学が非常に少ない。またいろいろな風評もある中で、介護をやりたいという学生の学びのモチベーションは非常に高いと思っている。中には親を説得して入学する学生もいる。そういった学生が 2 年間養成施設で基礎から学ぶということは、卒業してからの伸びしろが非常に大きい人材が育っていると思っている。
- ・ 今後は、本校でも外国人教育を行うことになると思いますが、その場合は、本校での 2 年間の学びを生かしてもらおう人材、リーダーとなれる人材、伸びしろのある人材をぜひ育てていきたい。介護の勉強をするために日本に学びに来たところをきっちりサポートできる体制でやっていきたいと思っている。募集的には厳しい現状はあるが、ぜひ頑張っていきたい。
- ・ また、今日委員の方からもお話があったように、記録することの大切さ、これは医療事務分野の委員会でも大切な要素としていろいろ意見を伺っており、本校はもともと記録の学校なので、それがきちんとできる人材を作ること教育のテーマとして捉えている。具体的な教育のノウハウを蓄積していきたいと思っているので、その面でも業界の方々と今後とも協力をして進めていきたい。

○最後に入野委員から以下の発言があった。

- ・ 学校が進めているグループワークは、受け身でなく学生も参加する非常に重要な授業方法だと思っている。特に福祉の現場の人たちは、学校の方針にある T P C、考えてしっかり話すのが不得手なところも多いことから、学生のころからグループワークを積極的に取り入れた授業を行うことは必要だと

思う。

- また、我々の社会ではケアマネジャーも含めてファシリテーションができないことをウイークポイントとして言われるので、グループワークを通して、ファシリテーションも学んでもらえると、チームをまとめて引っ張る力を伸ばすことができると思う。グループワークを是非強化してほしい。

以上